

平成14年人口動態統計（確定数） 石川県分の概況

「平成14年人口動態統計（確定数）の概況」（厚生労働省大臣官房統計情報部集計・公表）による石川県関係分は、前年に比べ死亡数・死産数が増加し、出生数、婚姻件数、離婚件数は減少した。

[出生]

- ・ 出生数は、平成元年以降、毎年1万1千人台で推移しているところであるが、平成14年の出生数は10,886人で、平成13年の11,342人より456人減少した。（過去最少となった。）
- ・ 平成14年の出生率(人口千対)は9.3で、平成13年の9.7を0.4下回った。なお、全国平均は9.2で、本県はそれよりも高い。
- ・ 合計特殊出生率は、昭和40年代後半の第2次ベビーブームの後、低下傾向にあるが、平成14年の合計特殊出生率は1.37で、平成13年の1.40を0.03下回った。（過去最低となった。）
なお、全国平均は1.32で、本県はそれよりも高い。

[死亡]

- ・ 死亡数は、平成9年以降、毎年9千人台で推移しているところであるが、平成14年の死亡数は9,584人で、平成13年の9,440人より144人増加した。
- ・ 平成14年の死亡率(人口千対)は8.2で、平成13年の8.0を0.2上回った。なお、全国平均は7.8で、本県はそれよりも高い。
- ・ 死亡原因の順位は、第1位 悪性新生物 2,983人(人口10万対 254.1)、第2位 心疾患 1,478人(人口10万対 125.9)、第3位 脳血管疾患 1,287人(人口10万対 109.6)である。
- ・ また、平成14年の乳児死亡数は42人で、平成13年の40人より2人増加し、平成14年の乳児死亡率(出生千対)は3.9で、平成13年の3.5を0.4上回った。なお、乳児死亡率の全国平均は3.0で、本県はそれよりも高い。

(自然増加 前年を下回る)

- ・ 出生と死亡の差である自然増加数は1,302人で、平成13年の1,902人より600人少なく、自然増加率(人口千対)は1.1で、平成13年の1.6を0.5下回った。なお、自然増加率の全国平均は1.4で、本県はそれよりも低い。

[死産]

- ・ 死産数は、平成9年以降、毎年300胎前後で推移しているところであるが、平成14年の死産数は305胎で、平成13年の288胎より17胎増加し、平成14年の死産率（出生+死産千対）は27.3で、平成13年の24.8を2.5上回った。
なお、死産率の全国平均は31.1で、本県はそれよりも低い。

[婚姻]

- ・ 婚姻件数は、平成7年以降、毎年7千件前後で推移していたところであるが、平成14年の婚姻件数は6,537組で、平成13年の6,921組より384組減少し、平成14年の婚姻率（人口千対）は5.6で、平成13年の5.9を0.3下回った。
なお、婚姻率の全国平均は6.0で、本県はそれよりも低い。

[離婚]

- ・ 離婚件数は、昭和40年代半ば以降、増加傾向にあったが、平成14年の離婚件数は2,208組で、平成13年の2,241組より33組減少し、平成14年の離婚率（人口千対）は1.88で、平成13年の1.91を0.03下回った。
なお、離婚率の全国平均は2.30で、本県はそれよりも低い。

人口動態総覧（石川県分）

	実 数		率		平均発生間隔	
	平成 14年	平成 13年	平成 14年	平成 13年	平成 14年	平成 13年
出 生	10,886	11,342	9.3	9.7	時 分 秒 48: 17	時 分 秒 46: 20
合計特殊出生率	-	-	1.37	1.40
死 亡	9,584	9,440	8.2	8.0	54: 50	55: 41
乳児死亡	42	40	3.9	3.5	208: 34: 17	219: 00: 00
新生児死亡	27	24	2.5	2.1	324: 26: 40	365: 00: 00
自 然 増 加	1,302	1,902	1.1	1.6
死 産	305	288	27.3	24.8	28: 43: 17	30: 25: 00
自然死産	168	152	15.0	13.1	52: 08: 34	57: 37: 54
人工死産	137	136	12.2	11.7	63: 56: 30	64: 24: 42
周産期死亡	66	59	6.0	5.2	132: 43: 38	148: 28: 28
妊娠満22週以後の死産	46	43	4.2	3.8	190: 26: 05	203: 43: 15
早期新生児死亡	20	16	1.8	1.4	438: 00: 00	547: 30: 00
婚 姻	6,537	6,921	5.6	5.9	1: 20: 24	1: 15: 57
離 婚	2,208	2,241	1.88	1.91	3: 58: 03	3: 54: 32

(注) 1 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産(出生+死産)千対であり、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対である。

2 率算出に用いた人口は、平成14年10月1日現在推計日本人口 1,174,000人(総務省推計)、平成13年10月1日現在推計日本人口 1,175,000千人(総務省推計)である。

主な用語の定義

- 自然増加 : 出生数から死亡数を減じたもの
- 合計特殊出生率 : 15歳～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供数に相当する。
- 乳児死亡 : 生後1年未満の死亡
- 新生児死亡 : 生後4週未満の死亡
- 早期新生児死亡 : 生後1週未満の死亡
- 死産 : 妊娠満12週以後の死児の出産
- 周産期死亡 : 妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの

